

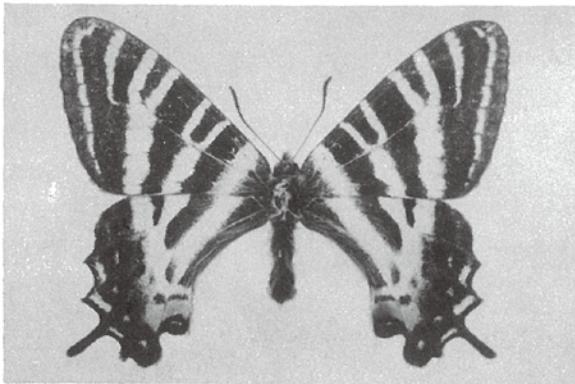
N K H

長岡市立科学博物館報

No. 29 1976

東山の昆虫特集





早春の晴れた日、山路で見かけるギフチョウ。

### 表紙写真

ニガナのみつをすうウスバシロチョウ：沢の奥や人家のまわりにすんでいる。幼虫は、ケシ科のエンゴサクやムラサキケマンの葉を食べる。チョウは、5月中旬に羽化し1週間くらいとんでいる。

日本特産種で、北海道の南部から四国まで分布するが九州にはいない。八方台周辺では、栖吉川の上流、真木、雷、竹之高地などの産地が見つかっている。また、真木や雷のものは大きく、前翅長が4cmもあるて、どこの地方のものより大きい。なお、この種の色彩は、表日本のものは明るく、裏日本に分布するものは暗いといわれている。特に、下越・魚沼・頸城地方のものは暗いが、長岡地方のものはそれほど暗くない(図1参照)。

(撮影: 1974年5月12日、花立峠)

—表紙デザイン：本間正三—

N K H

29号

1976年3月

### 〈東山の昆虫〉

東山山系の昆虫相は、裏日本の多雪地帯における山地性の種が組み合わされてできている。エゾイトトンボ、エゾゼミ、オオセンチコガネ、クジャクチョウなどの種がそれである。もちろん、南の系統のアオバセセリ、オナガアゲハ、ヤマトシジミなどの種も時おり見かけるが少ない。

種類や地方変異などに見られる特徴をあげれば、ウスバシロチョウの大きさが日本最大であること、他の地方では珍らしいクロシジミが多産すること、マガタマハンミョウの金緑色のものやエゾゼミの変異型が高率に出現することなどであろう。また、八方台国民宿舎の南の沢にある小さい池、宿舎のすぐ前の湿地には、氷河期に栄えた動植物が多く、貴重な自然が残されている。

この特集は、当博物館と越佐昆虫同好会がお世話する「昆虫相をしらべる会」が数年にわたって調査した資料を精選して編集した。しらべる会は、前に「千本平の昆虫(1),(2)」と「小木ノ城の昆虫(1),(2)」をこの会報で報告して好評であった。今回は写真で調べた結果を紹介することにしたい。(昆虫研究室樋熊清治)



八方台国民宿舎から見る『県民いこいの森』

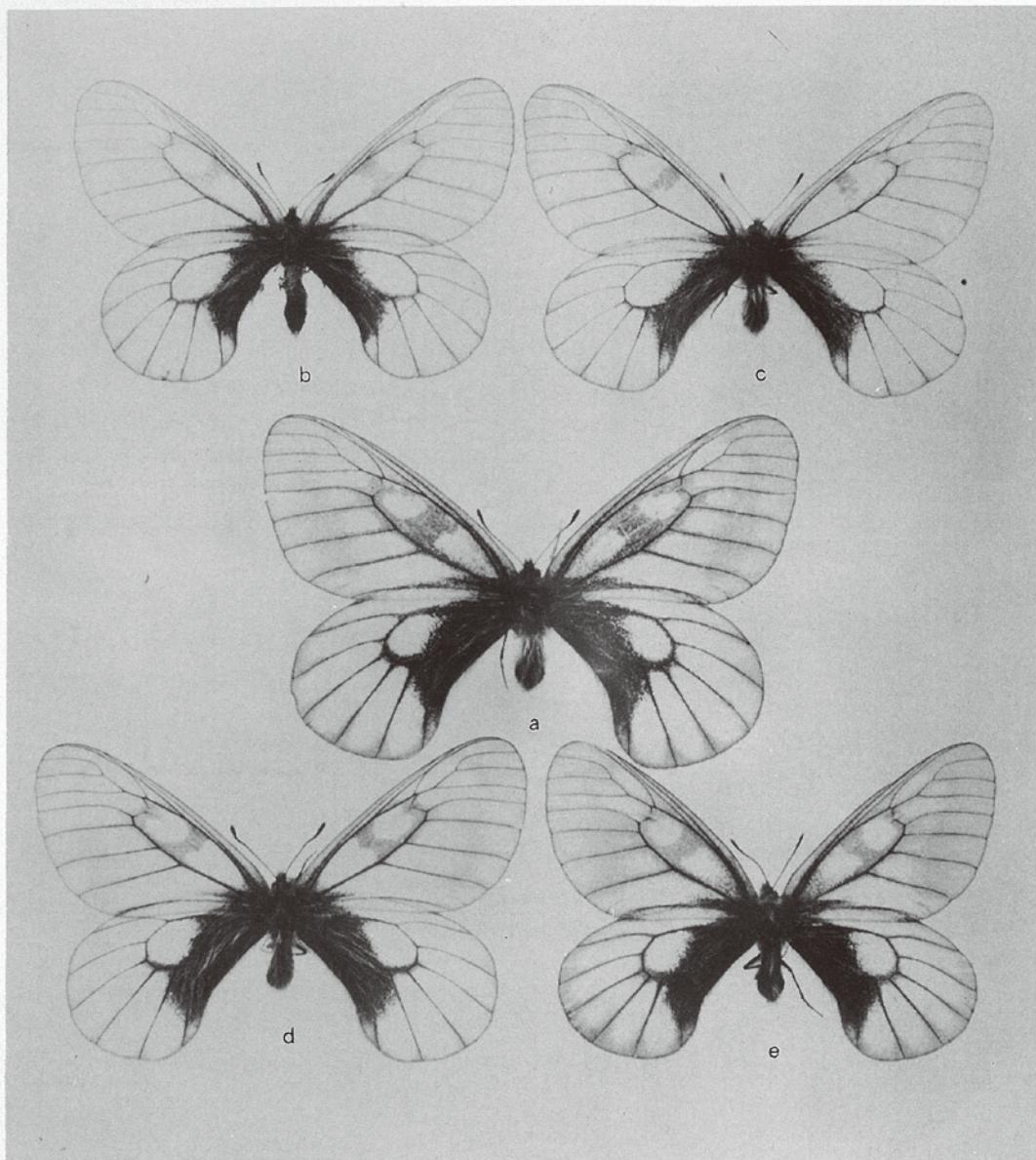


図1. 各地のウスバシロチョウ (♂)

- a : 長岡市真木産 (26 / V, 1966) 前翅長42.4mm  
 b : 盛岡市穴口産 (18 / V, 1961) ♂ 35.3mm  
 c : 群馬老神温泉産 (25 / V, 1963) ♀ 37.3mm  
 d : 弥彦猿ヶ馬場産 (23 / V, 1963) ♂ 37.8mm  
 e : 湯之谷村下折立産 (3 / IV, 1966) ♂ 36.7mm

真木産は、平均41mmくらいで大きく、それほど暗くない。表日本の盛岡・群馬県老神産は小型で明るい。弥彦産は真木産より少し小さく平均38mmくらいである。湯之谷産は魚沼地方の型で真木産よりはるかに暗い。



図2. 春型は明るいベニシジミ

幼虫時代はスイバやギシギシを食べて成長する。春型は濃いだいだい色。夏型は暗い。秋型はその中間。



図3. 春早く現れるシモフリコ  
メツキ

幼虫は土中に生活し、植物の根を食べる。中型のコメツキムシで背面には一様にシモフリ状のうすい紋がある。

図4. 雪国だけのマガタマハンミョウ

北陸地方、東北地方の多雪地帯にだけ分布する。鞘ばねは退化して開かない。

風谷山の山麓一帯には美しい金緑色にかがやく型のものがあらわれる。東山の特徴の一つ。



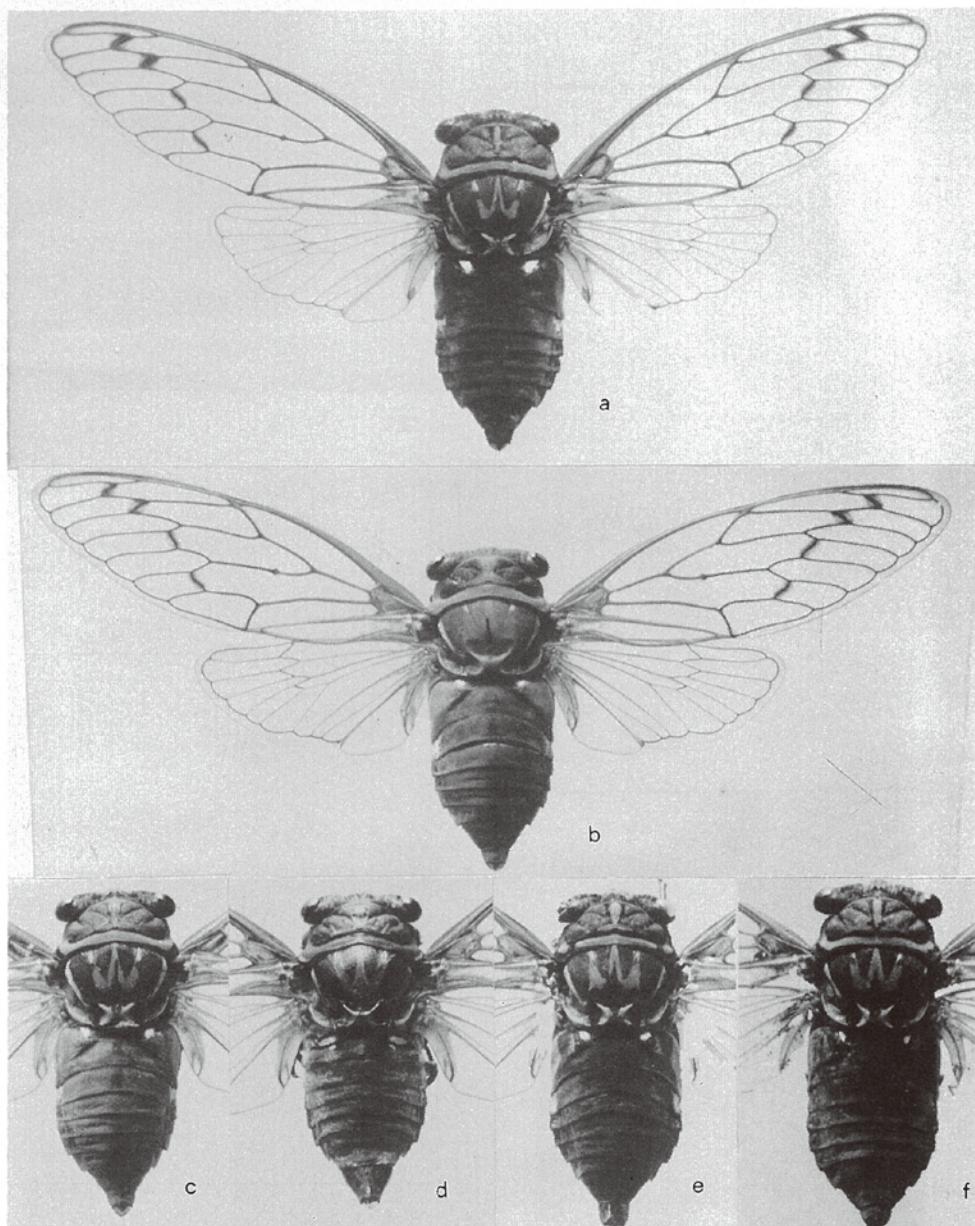


図5. 八方台に多いエゾゼミの変りもの（変異型）

エゾゼミには七つの変異型が知られている。そのうちの四つの型と一つの新型が見つかった（出現率15%）。  
bの型はエチゴエゾゼミとよばれる主として新潟県に出る型。

a : 原型    b : f. *echigo kato* (全体みかん色)

c : f. *kobayashi kato* (腹部だけみかん色)

d : f. *iwaoi kato* (腹部はこげ茶色)

e : f. *ingrofastiatus kato* (前胸のコの字型黄帯にコエゾゼミに似た黒紋があらわれる)

f : f. nov. (新型、第2腹節側縁部を除く全面みかん色)

東山のチョウ (30年前の  
記録と比較)

和 名	荻野(1950) 調査: 1937 ~1941	しらべる会 調査: 1970 ~1974
1) ミヤマセセリ	○	+
2) ダイミョウセセリ	○	#
3) アオバセセリ		+
4) キバネセセリ	○	
5) コチャバネセセリ	○	#
6) コキマダラセセリ	○	+
7) キマダラセセリ	○	+
8) オオチャバネセセリ	○	#
9) チャバネセセリ	○*	+
10) ミヤマチャバネセセリ		+
11) イチモンジセセリ	○	#
12) ギフチョウ	○	#
13) ウスパシロチョウ	○	#
14) アオスジアゲハ		+
15) キアゲハ	○	#
16) アゲハ	○	#
17) クロアゲハ	○	#
18) オナガアゲハ	○	+
19) カラスアゲハ	○	#
20) ミヤマカラスアゲハ	○	#
21) キチョウ	○	#
22) スジボソヤマキチョウ	○	
23) モンキチョウ	○	#
24) ツマキチョウ	○	#
25) モンシロチョウ	○	#
26) スジグロチョウ	○	#
27) エゾスジグロチョウ		#
28) ムモンアカシジミ		+
29) アカシジミ	○	+
30) ウラナミアカシジミ	○	+
31) ミズイロオナガシジミ	○	#
32) ミドリシジミ	○	+
33) オオミドリシジミ	○	#
34) トラフシジミ	○	#
35) コツバメ	○	#



図6. ウスパシロチョウの食草ミチノクエンゴサク



図7. アサツキの花に来たダイミョウセセリ

36) ゴインシジミ	○	#
37) ベニシジミ	○	#
38) クロシジミ		#
39) ウラナミシジミ	○	+
40) ヤマトシジミ	○	+
41) ルリシジミ	○	#
42) ツバメシジミ	○	#
43) ミヤマシジミ	○	×
44) テングチョウ	○	×
45) ウラギンスジヒョウモン	○	+
46) オオギラギンスジヒョウモン	○	#
47) ミドリヒョウモン	○	#
48) クモガタヒョウモン	○	#
49) メスグロヒョウモン	○	#
50) ウラギンヒョウモン	○	#
51) イチモンジチョウ	○	+
52) アサマイチモンジ		+
53) コミスジ	○	+
54) オオミスジ	○	
55) サカハチチョウ		+
56) キタテハ	○	+
57) シータテハ		+
58) エルタテハ	○*	×
59) ルリタテハ	○	#
60) ヒオドシチョウ	○	#
61) クジャクチョウ	○*	+
62) ヒメタカタテハ	○	#
63) アカタテハ	○	#
64) コムラサキ		+
65) ゴマダラチョウ	○	+
66) オオムラサキ	○	
67) ヒメウラナミジャノメ	○	#
68) クロヒカゲ	○	#
69) オオヒカゲ	○	
70) ヤマキマダラヒカゲ	○	#
71) サトキマダラヒカゲ		#
72) ヒメキマダラヒカゲ	○*	×
73) ヒメジャノメ	○	#
74) コジャノメ	○	
計	63 (* 4)	64

注) \* 新潟県天産誌 (1925)。+いる, #多い, ##特に多い,  
×いない。



図10. 国民宿舎前の湿地

この沼状湿地にも雨池に負けないくらい昔の植物や動物がすんでいる。特に氷河期に全盛を極めたミツガシワがそのまま残されている。向う側の灌木についている二つの白いかたまりは、モリアオガエルの卵塊。▼

図11. クロイトンボとモノサシトンボ

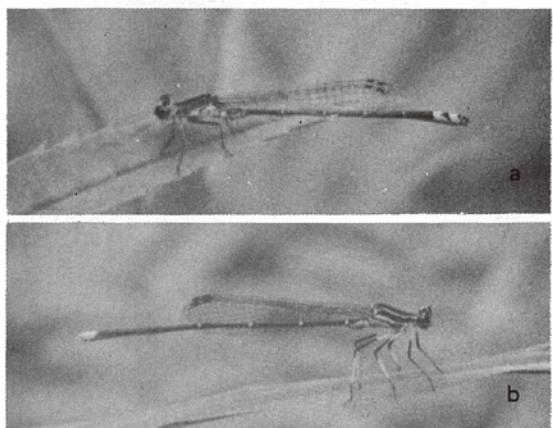
a 図がクロイトンボ(♂)で、  
b 図はモノサシトンボ(♂)で、  
この池に後から侵入した新興種。▲

図8. 氷河期の遺存物が多い雨池

◀ 国民宿舎から南へ少し下った沢にある小さな池。高地湿原種のエゾイトトンボ、カラカネトンボ、オオルリボンヤンマなどがすんでいる。また、モリアオガエルやクロサンショウウオも産卵するので、長岡市はこの一帯を買上げて保存している。

図9. ミツガシワの葉にとまるエゾイトトンボ

この雨池に最近ニシキゴイを入れた人がある。こういうことをすると、生息種の組合せ(生態系)が変り、古い種は滅びてしまうことがある。▼



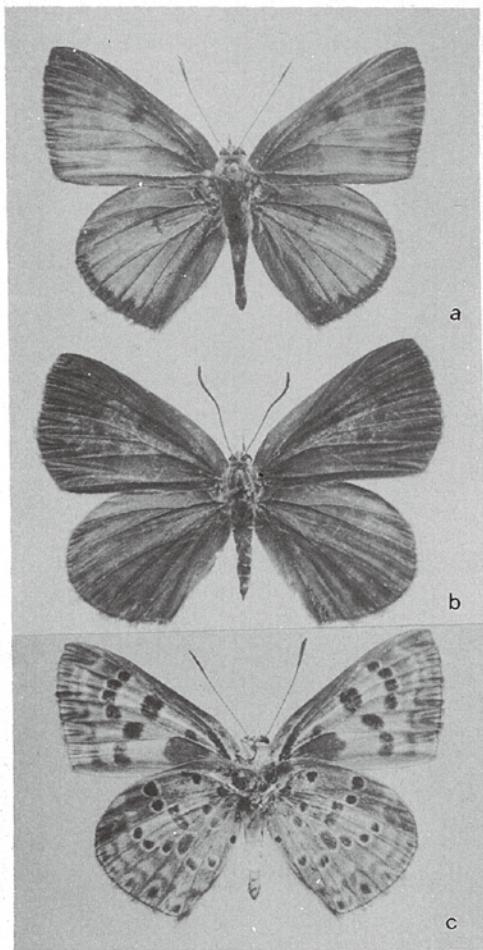


図12. アブラムシやアリと共生するクロシジミ

このチョウは全国的に産地が少ない。ところが花立峰の中腹やコハ清水の地域には多産する。a—♂, b—♀,



図15. ナライガフシバチの虫えい

ナラの若枝の芽にこの小蜂が産卵するとその組織が異常に発達する。



図13. オカトラノオに来たスキバホウジャク

スズメガの一種で昼間活動する。幼虫はスイカズラ、オミナエシなどの葉を食べる。



図14. 翅が退化したコブヤハズカミキリ

山路の枯れ枝などで見かける。鞘翅が退化して開かない。



図16. エゾアオカメムシの幼虫

サルナシの実から果汁を吸う幼虫。体全体は鮮やかな緑色。

## 昭和50年度事業報告

### 資料収集・調査

#### [植物研究室]

- 大木の生態調査、5月、山古志村桂谷
- ノガリヤス属植物の生態調査、8月、中魚沼郡津南町  
大割野
- 水生植物の分布調査、8月、見附市
- ササ属植物の分布調査、11月、村上市・東蒲原郡津川  
町・糸魚川市

#### [昆虫研究室]

- 昆虫化石調査、6月、東頸城郡松代町（地学調査員と  
共同）
- ヒメシジミの分布調査、6月～7月、岩船郡関川村字  
金丸、7月、村上市山麓地帯
- 止水域のトンボ相調査、7月、三島郡出雲崎町山之脇  
平野新の池、8月、見附市赤坂の湿地
- クロツバメシジミの分布調査、9月～11月、糸魚川市  
姫川流域

#### [動物研究室]

- 野鳥標識調査、5月、柏崎市
- 福島潟野鳥標識調査、5月～6月、豊栄市
- 〔考古研究室〕
- 遺跡予備調査、5月、東頸城郡松代・松之山町、6月、  
北魚沼郡広神村小平尾・柄尾市中野俣、7月、東頸城  
郡牧村柳島
- 尾立遺跡発掘調査、8月、市内富岡町

#### [歴史民俗研究室]

- マンチ調査、4月、小千谷市、5月、刈羽郡刈羽村前  
田・三島郡寺泊町
- ゴゼ調査、7月、中蒲原郡村松町・白根市、8月、白  
根市、9月、新潟市、9月、新津市、12月、新潟市、  
2月、新潟市
- 積雪期民具資料収集、7月、東頸城郡松之山町、8月、  
中頸城郡妙高高原町杉野沢、9月、糸魚川市・西頸城  
郡青海町・中魚沼郡中里村土倉、10月、北蒲原郡中条  
町・南魚沼郡塩沢町・岩船郡山北町山熊田・朝日村三  
面、11月、東蒲原郡上川村室谷、北魚沼郡入広瀬村穴  
沢・大白川・南魚沼郡塩沢町・中魚沼郡津南町結束
- 歴史民俗受贈資料 4月～3月

歴史資料 小原直色紙（1枚）、長岡藩名士小伝（1冊）  
ほか4冊（坂牧清）

民俗資料 二重トンビ1点、角巻1点（千野力）、セト  
モノツグラ4点（諏訪弥七）、クルゲエ1点（田崎正  
平）、大八車1点（高橋松男）、ハバキ1点（東頸城松

之山町・石塚周一）ほか積雪期民具324点

### 学会・研修会・協議会

- 昭和50年度日本生態学会 4月4日～7日、京都市  
(動物)
- 昭和50年度新潟県博物館協議会総会 4月17日、新潟  
市（参加：鈴木館長）
- 昭和50年度新潟県博物館運営研究会 6月9日～10日、  
三島郡出雲崎町（参加：鈴木館長・猪俣主事）
- 県民俗学会探訪調査 6月28日～29日、西頸城郡名立  
町（歴史民俗）
- 第27回日本民俗学会 7月28日～31日、東京都（歴史  
民俗）
- 新潟県博物館協議会役員会 8月25日、新潟市（参加  
：鈴木館長）
- 県生物教育研究会夏期講習 8月26日～27日、糸魚川  
市明星山麓（参加：樋熊館長補佐）
- 昭和50年度博物館学芸員等職員研修会 10月2日～3  
日、北方文化博物館（参加：鈴木館長・樋熊館長補佐）
- 新潟県民俗学会 10月26日、西蒲原郡卷町（歴史民俗）  
館外普及活動
- 昆虫相をしらべる会  
西山丘陵地帯に分布する昆虫類の生息状態を調査する。  
5月11日、大積町周辺、参加者10名  
6月15日、タマノイ、参加者28名  
7月13日、タマノイ、参加者26名  
8月10日、タマノイ、参加者24名  
9月7日、タマノイ、参加者19名  
10月12日、タマノイ、参加者7名
- 悠久山野鳥観察会  
5月18日、悠久山公園内、講師：県立長岡大手高校教  
諭関根正平先生、参加者42名
- 信濃川野鳥観察会  
6月8日、信濃川左岸堤、講師：柄尾市立柄尾中学校  
教諭井口忠先生、参加者27名
- 生物夏期学校（中越青少年文化センター共催）7月25  
日～8月12日、中越青少年文化センター、参加者延90  
名
- 県下小・中・高校生生物標本（第24回）・自然科学写  
真（第17回）展示会、10月7日～10日、厚生会館中ホ  
ール、審査員：栄村立大面中学校長根立祐之助先生、  
ほか9名、出品者数285名、出品点数7,471点、入場者  
数1,729名
- 県下小・中・高校生生物研究発表会（第12回）、10月10  
日、厚生会館中ホール、講師：県立柏崎高校教頭藤田  
暉輔先生ほか2名、

発表者 小学生の部 10題10名  
 中学生の部 9題10名  
 高校生の部 5題 5名  
 出席者数180名

## ○秋の植物観察会

10月19日、栖吉風谷山周辺、講師：坪谷富男先生、参加者22名

## ○科学博物館講演会

3月27日、互尊文庫、講師：新潟大学理学部助教授石沢進先生、演題「県の木ユキツバキ」出席者21名  
 ○早春の植物観察会

3月28日、悠久山公園、講師：石沢進先生 参加者24名

## 文献発行

## ○館報N K H

28号：生物研究発表会特集号 21P 500部

29号：東山の昆虫（特集号） 8P 500部

## ○博物館研究報告 第11号70P 500部

新潟県長岡市長岡ニュータウンの植物 西山邦夫ほか  
 植生に対応する地表活動性昆虫群の動態と簡易トラップによる捕集成績の検討 横熊清治

新飯田啓女 鈴木昭英

## 主な展示替え

## ○植物展示室の補充展示

「飯豊山の植物」「尾瀬ヶ原の植物」「悠久山の植物」の解説・写植ドライマウント・カラー写真補充展示

## ○昆虫展示室

「標本の作り方」ケースの補充展示

## ○民俗展示室

「さいの神コーナー」模様替え展示

## 主な器具の補充

○昆虫標本箱

## 主な施設整備

○博物館屋外広告塔補修

○案内表示板の補修

○狸小屋の柵取付け

○白鳥小屋フェンス取替え

## 博物館協議会

○第1回 7月3日、当館館長室 出席：山崎・小幡・吉田・遠藤・結城委員 議題：(1)経過報告、(2)その他

○第2回 3月30日、当館館長室 出席：山崎・近藤・羽賀・吉田・遠藤・小幡・結城委員、小林宇五郎顧問片桐義則地学調査員 議題：(1)経過報告、(2)51年度予算、(3)その他

## 科学博物館振興のための寄附採納について

昭和50年5月1日付をもって田村桃園句碑を建てる会  
 (代表 桜井左右太殿、長岡市藏王3丁目北越製紙株式会社内 長陵句会)より電子コピー機ユーピックス101型 1基、同消耗品 1式、雪国の人具資料収集資金の御寄附を頂きました。御厚志ありがとうございますお礼申し上げます。備品は有效地に使わせて頂いています。資金については早速執行し、県内外地から320点に及ぶ積雪期の人具資料を収集しました。社会教育事業の推進に有效地に活用してゆきたいと思います。

## 図書の受入れ

○購入 図書 「越佐史料」、ほか31冊

雑誌 「地方史新潟」、ほか87冊

○受贈 図書 「紡織習俗I 新潟県第20集」文化庁文化財保護部記念物課 ほか22冊

昭和50年度月別入館者数 (50年3月～51年2月)

月別	個人		団体		合計	市内小・中学校等無料入館
	大人	小人	大人	小人		
3	231	91	—	—	322	—
4	1,732	1,117	—	2,244	5,093	463
5	1,523	680	141	11,407	13,751	307
6	1,048	359	409	819	2,635	99
7	791	316	165	2,273	3,545	200
8	2,596	1,556	308	1,154	5,614	43
9	1,104	560	55	1,183	2,902	—
10	947	261	250	280	1,738	72
11	664	214	—	—	878	21
12	60	11	—	—	71	—
1	28	6	—	—	34	—
2	48	8	—	—	56	—
計	10,772	5,179	1,328	19,360	36,639	1,205

雑誌 「四季のつどい」No.1 東浦自然同好会,  
ほか272冊

パンフレット 鹿児島県文化センターだより 3  
月号, ほか299部

#### 職員の異動(退職)

○柿沢亮三 (学芸員) / 昭和50年6月30日付退職 (山階  
鳥類研究所へ転出)

就 任: 昭和46年4月1日

#### 主な業績

- (1970) 渡りの意味. N K H, 19: 4~5.
- (1972) コツバメの繁殖生活. 長岡科博研報, 7:  
33~50.
- (1973) コサギの冬場における生活. 長岡科博研報,  
8: 7~26.
- (1973) オオヨシキリの部分白化. N K H, 24: 7  
~8.
- (1974) オオヨシキリの成鳥と幼鳥の渡りの時期.  
長岡科博研報, 9: 49~54.

○中村孝三郎 (嘱託) / 昭和50年12月16日付退職

就 任: 昭和26年8月1日

#### 主な業績

- (1957) 三仏生. 長岡科博考古研報, 1
- (1958) 馬 高. 同 上, 2
- (1960) 小瀬が沢洞窟. 同 上, 3
- (1961) 越後の石器. 同 上, 4
- (1963) 卵の木押形文遺跡・貝坂遺跡. 同上, 5
- (1964) 室谷洞窟. 同 上, 6
- (1965) 中土遺跡. 同 上, 7
- (1966) 先史時代と長岡の遺跡. 同 上, 8
- (1971) 御淵上. 同 上, 10
- (1975) 根立遺跡. 同 上, 12
- (1962) 室谷洞窟. 新潟県文化財調査年報, 4: 1  
~14.
- (1963) 泉竜寺遺跡調査報告. 上代文化, 33: 17~  
32.
- (1967) 中部地方の洞穴遺跡. 日本各地における洞  
穴遺跡の調査 (日本考古学協会), pp. 103~118.
- (1970) 三十稻場遺跡調査略報告書. 長岡市教育委  
員会.
- (1975) 長表遺跡. 六日町文化財調査報告書, 2.
- 猪俣すみ子 (主事) / 昭和51年1月16日付退職(死亡)  
就 任: 昭和48年10月1日 (市市民部市民課より)

N K H (長岡市立科学博物館報) No.29  
昭和51年3月31日発行

---

編集・発行 長岡市立科学博物館  
(長岡市悠久山公園内)  
印 刷 所 株式会社 三秀社  
(長岡市宮内8丁目)

